

■ 図 1-5 富士山の有史時代の噴火・噴煙

西暦年代	富士山の活動	備考（出典）
8世紀中ごろ	噴煙（噴火？）	“もゆる火を雪もてけち、ふる雪を火もてけちつつ、・・・石花海（せのうみ）となつてあるもその山のつつめる海ぞ・・・。”（万葉集）
781	天応元年噴火	山麓に降灰し、木の葉枯れる。（続日本紀）
800～802	延暦 19～21 年噴火	（日本後記）
826	天長 3 年噴火	（寒川神社記録）
864～865	貞観 6～7 年噴火	（三代実録）
870	山頂火口活動（噴火？）	山頂火口内に沸湯池あり、噴煙（都良香の富士山記、古今集）富士山中央大いに焚く。（寒川神社記録）
889～905	噴煙休止	（三代実録、古今集）
918～926	噴煙	（大和物語）
932	承平 2 年噴火？	大宮浅間神社焼失
937	承平 7 年噴火	神火、水海を埋む。（日本紀略）
951 ごろ	噴煙（噴火？）	（後撰集）
969 ごろ	噴煙	（伊勢集、家集）
993	正暦 4 年噴火？	
999	長保元年噴火	“不字御山” 焚く。（本朝世紀）
1017 ごろ	噴煙（噴火？）	（更科日記）
1033	長元 5 年噴火	富士山火、峰より起こり、山脚に至る。（日本紀略）
1083	永保 3 年噴火	富士山燃焼。（扶桑略記）
1205 ごろ	噴煙	（新古今集）
1225 ごろ	噴煙	
	噴煙休止	（海道記）
1240 ごろ	噴煙	（宗尊親王の歌、東関紀行）
1275～1280	噴煙休止	（十六夜日記）
1331	地震、山頂崩壊	（太平記）
1340 ごろ	噴煙	（宗良親王の歌、新千載集、続古今集）
1511	永正 8 年噴火？	鎌岩熱ゆ。（妙法寺旧記）
1521 ごろ	噴煙、後休止	
1560	永禄 3 年噴火	（日本災異志）
1615 ごろ	噴煙	（日本西教史、篠枕）
1700	元禄 13 年噴火	（日本災異志）
1707	宝永 4 年噴火	（伊東志摩守日記、他）

出典：『富士山-富士山総合学術調査報告書』

（発行：富士急行株式会社／調査委託：（財）国立公園協会 1971）